



# 令和6年度 学校法人天理大学事業報告書

学校法人 天理大学

## I 法人の概要

### 1. 設置する学校および附属施設

法人事務局	〒 632-0035 奈良県天理市守目堂町 213-4 <a href="https://gh.tenri-u.ac.jp/">https://gh.tenri-u.ac.jp/</a>
天理大学	〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050 <a href="https://www.tenri-u.ac.jp/">https://www.tenri-u.ac.jp/</a>
天理図書館	〒 632-8577 奈良県天理市杣之内町 1050 <a href="https://www.tcl.gr.jp/">https://www.tcl.gr.jp/</a>
おやさと研究所	〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050 <a href="https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/">https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/</a>
天理参考館	〒 632-8540 奈良県天理市守目堂町 250 <a href="https://www.sankokan.jp/">https://www.sankokan.jp/</a>
天理高等学校 第一部	〒 632-8585 奈良県天理市杣之内町 1260 <a href="https://www.tenri-h.ed.jp/1bu/">https://www.tenri-h.ed.jp/1bu/</a>
天理高等学校 第二部	〒 632-8585 奈良県天理市杣之内町 1260 <a href="https://www.tenri-h.ed.jp/2bu/">https://www.tenri-h.ed.jp/2bu/</a>
天理中学校	〒 632-0032 奈良県天理市杣之内町 827 <a href="https://www.tenri-j.ed.jp/">https://www.tenri-j.ed.jp/</a>
天理小学校	〒 632-0032 奈良県天理市杣之内町 80 <a href="https://www.tenri-e.ed.jp/">https://www.tenri-e.ed.jp/</a>
天理幼稚園	〒 632-0015 奈良県天理市三島町 470-1 <a href="https://www.tenri-k.ed.jp/">https://www.tenri-k.ed.jp/</a>

### 2 建学の精神

親神（おやがみ）は、「陽気ぐらし」を共に楽しみたいと思召されて、人間世界を創造された。

教祖（おやさま）は、この元なる親神（おやがみ）の存在と、世界一列きょうだいの真実を明かし、「ひながた」の道を通して、互いにたすけあう生き方を示された。

本法人は、教祖（おやさま）の教えに基づいて、「陽気ぐらし」世界建設に寄与する人材の養成を使命とする。

### 3. 学校法人の沿革

- 明治33(1900)年 ● 天理教校開校
- 明治41(1908)年 ● 私立天理中学校開校(大正8年天理中学校に改称)
- 大正 9(1920)年 ● 天理女学校開校
- 大正12(1923)年 ● 天理女学校を高等女学校令による天理高等女学校に改組・改称
- 大正14(1925)年 ● 天理幼稚園、天理尋常小学校、各種学校令による天理外国語学校開校  
● 天理図書館を天理外国語学校内に設置
- 昭和 2(1927)年 ● 財団法人天理外国語学校設立、専門学校令による天理外国語学校開校
- 昭和 3(1928)年 ● 専門学校令による天理外国語学校(男子)と天理女子学院(女子)に改組・改称  
● 天理中等学校(定時制)開校(昭和18年天理中学校第二部に統合)
- 昭和 5(1930)年 ● 海外事情参考品室(現天理大学附属天理参考館)を天理外国語学校内に設置
- 昭和10(1935)年 ● 財団法人天理教いちれつ会に改組、天理第二中学校開校
- 昭和15(1940)年 ● 天理女子学院を専門学校令による天理女子専門学校に改組・改称
- 昭和16(1941)年 ● 天理夜間女学校開校(昭和19年天理高等女学校第二部に改組)
- 昭和17(1942)年 ● 天理教亜細亜文化研究所(現天理大学附属おやさと研究所)設置
- 昭和19(1944)年 ● 天理外国語学校を天理語学専門学校に、また天理女子専門学校を天理女子語学  
専門学校にそれぞれ改組・改称(昭和22年統合、昭和26年廃校)
- 昭和22(1947)年 ● 新制天理中学校開校
- 昭和23(1948)年 ● 財団法人天理語学専門学校に改組、新制天理高等学校(第一部・第二部)開校
- 昭和24(1949)年 ● 財団法人天理大学に改称  
● 新制天理大学開学  
(文学部、昭和27年外国語学部設置(平成12年廃止)、昭和30年体育学部設置)
- 昭和25(1950)年 ● 天理大学短期大学部設置(昭和34年廃止)
- 昭和26(1951)年 ● 私立学校法により学校法人天理大学に組織変更
- 昭和33(1958)年 ● 天理大学選科日本語科設置(昭和56年別科日本語課程、外国語課程に改組・改称、  
外国語課程は平成4年度から募集停止、日本語課程は平成6年度から募集停止)
- 昭和38(1963)年 ● 天理准看護婦養成所開設(平成13年廃止)
- 平成 4(1992)年 ● 天理大学人間学部(宗教学科、人間関係学科)、国際文化学部(日本学科、朝鮮学科、  
中国学科、タイ学科、インドネシア学科、英米学科、ドイツ学科、フランス学科、  
ロシア学科、イスパニア学科、ブラジル学科[平成15年募集停止、平成21年廃止])、  
文学部(歴史文化学科)設置
- 平成12(2000)年 ● 天理高等学校第二部に介護福祉科設置(平成24年廃止)
- 平成15(2003)年 ● 天理大学国際文化学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科設置(平成22年募集  
停止、平成29年廃止)
- 平成16(2004)年 ● 天理大学大学院臨床人間学研究科臨床心理学専攻修士課程設置
- 平成22(2010)年 ● 天理大学国際学部外国語学科、地域文化学科設置
- 平成27(2015)年 ● 天理大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程設置
- 平成29(2017)年 ● 天理大学大学院宗教文化研究科宗教文化研究専攻修士課程設置
- 令和 5(2023)年 ● 天理大学医療学部(看護学科、臨床検査学科)設置  
天理大学人間学部(宗教学科、人間関係学科)、文学部(国文学国語学科、歴史文化学  
科)国際学部(地域文化学科)募集停止
- 令和 6(2024)年 ● 天理大学人文学部(宗教学科、国文学国語学科、歴史文化学科、心理学科、社会教育  
学科、社会福祉学科)、国際学部(韓国・朝鮮語学科、中国語学科、英米語学科、国際  
文化学科、日本学科)設置

#### 4. 役員・評議員の概要

(1) 理事・監事 理事定員数13～15名 現員数14名、監事定員数2～3名 現員数2名 (令和7年3月31日現在)

		就任年月日
理事長 (常勤)	西 浦 忠 一 (学校法人天理大学 理事長)	2024.04.01
専務理事 (常勤)	松 村 孝 吉 (学校法人天理大学 専務理事)	2023.04.01
常務理事 (常勤)	井 筒 夏 夫 (学校法人天理大学 常務理事)	2021.04.02
常務理事 (常勤)	清 瀬 善 敬 (学校法人天理大学 常務理事)	2023.04.01
常務理事 (常勤)	吉 福 晃 (学校法人天理大学 常務理事)	2023.04.01
理事 (常勤)	永 尾 比奈夫 (天理大学 学長)	2021.04.02
理事 (常勤)	西 田 伊 作 (天理高等学校 校長)	2023.04.01
理事 (常勤)	島 田 勝 巳 (天理大学 副学長)	2023.04.01
理事 (常勤)	屋 宜 譜美子 (天理大学 副学長)	2023.04.01
理事 (常勤)	安 藤 正 治 (天理図書館 館長)	2022.04.01
理事 (常勤)	橋 本 道 人 (天理参考館 館長)	2022.11.02
理事 (非常勤)	松 田 理 治 (宗教法人天理教 海外部長)	2021.04.02
理事 (非常勤)	小 林 忠 男 (医学博士)	2020.04.01
理事 (非常勤)	塩 澤 好 久 (株式会社シオザワ 代表取締役社長)	2009.11.06
監事 (非常勤)	安 藤 勇 作 (元監査室長)	2020.11.01
監事 (非常勤)	福 富 修 一 (弁護士)	2005.06.02

(2) 評議員 評議員定員数31名 現員数31名 (令和7年3月31日現在)

		就任年月日			就任年月日
評議員	西 浦 三 太	2016.03.26	評議員	三 濱 靖 和	2020.10.25
評議員	尾 上 晋 司	2023.04.01	評議員	西 正一郎	2023.10.25
評議員	伊 藤 加寿子	2023.04.01	評議員	上 田 則 之	2020.10.25
評議員	吉 福 晃	2020.04.01	評議員	高 橋 道 一	2008.10.25
評議員	小 川 富 博	2023.04.01	評議員	堀 内 みどり	2019.07.02
評議員	長 谷 幹 男	2023.04.01	評議員	吉 川 万寿信	2023.10.25
評議員	稲 葉 さやか	2023.04.01	評議員	増 野 正 志	2017.10.25
評議員	中 村 修 司	2023.10.25	評議員	井 筒 夏 夫	2021.04.02
評議員	志富田 みちの	2023.04.01	評議員	山 中 秀 夫	2017.10.25
評議員	根 兵 種 夫	2023.10.25	評議員	井 上 昭 洋	2017.10.25
評議員	西 浦 忠 一	2024.07.01	評議員	岡 田 龍 樹	2017.10.25
評議員	松 尾 憲 善	2020.10.25	評議員	岡 田 正 彦	2017.10.25
評議員	板 倉 望	2017.10.25	評議員	井久保 齐	2020.10.28
評議員	梅 谷 大 一	2017.10.25	評議員	中 純 子	2023.10.30
評議員	清 瀬 善 敬	2016.03.26	評議員	塚 本 順 子	2023.10.30
評議員	松 村 孝 吉	2020.10.25			

## 5. 学校・学部・学科等の入学定員、学生数、教職員数の概要

令和6(2024)年5月1日現在 (単位：名)

学校	学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数	
天理大学大学院		宗教文化研究科	6	0	12	0	
		臨床人間学研究科	8	6	16	13	
		体育学研究科	12	1	24	10	
		大学院計	26	7	52	23	
天理大学	人文学部	宗教学科	20	9	20	9	
		国文学国語学科	40	14	40	14	
		歴史文化学科	50	34	50	34	
		心理学科	40	22	40	22	
		社会教育学科	40	23	40	23	
		社会福祉学科	50	30	50	30	
		人文学部計	240	132	240	132	
	人間学部	宗教学科	—	—	120	64	
		人間関係学科	—	—	240	220	
		人間学部計	0	0	360	284	
	文学部	国文学国語学科	—	—	120	82	
		歴史文化学科	—	—	150	103	
		文学部計	0	0	270	185	
	国際学部	韓国・朝鮮語学科	40	24	40	24	
		中国語学科	40	11	40	11	
		英米語学科	60	35	60	35	
		外国語学科	60	13	555	314	
		国際文化学科	50	50	50	50	
		日本学科	40	16	40	21	
		地域文化学科	—	—	585	365	
		国際学部計	290	149	1,370	820	
	体育学部	体育学科	240	247	840	892	
		体育学部計	240	247	840	892	
	医療学部	看護学科	70	79	280	320	
		臨床検査学科	30	34	120	94	
		医療学部計	100	113	400	414	
	学部計			870	641	3,480	2,727
	総計			896	648	3,532	2,750

学校	学科	募集人員	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
天理高等学校 第一部	全日制普通科	480	520	402	1,560	1,187
天理高等学校 第二部	定時制普通科	108	144	100	576	362
	天理高等学校計	588	664	502	2,136	1,549
天理中学校		160	200	123	600	431
天理小学校		110	125	57	750	419
天理幼稚園			50	29	200	90
総計		858	1,039	711	3,686	2,489

以上、大学院から幼稚園までの学生数の合計：5,239名

施設	役員数	教員数		職員数		総計
		専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員	
法人事務局	16	0	0	37	16	69
天理大学		178	275	92	41	586
天理図書館		0	0	26	9	35
おやさと研究所		5	0	2	1	8
天理参考館		0	0	22	1	23
天理高等学校 第一部		84	6	28	106	224
天理高等学校 第二部		30	4	22	45	101
天理中学校		30	2	4	14	50
天理小学校		31	1	4	5	41
天理幼稚園		11	0	2	8	21
総計	16	369	288	239	246	1,158

## Ⅱ 事業の概要

学校法人天理大学は、教育基本法および学校教育法に従い、併せて天理教の信仰に基づく宗教教育を行うことを目的として設立されました。本法人は、この目的を達成するために、「天理大学」「天理高等学校」「天理中学校」「天理小学校」「天理幼稚園」を設置し、天理教の教義に基づき、「陽気ぐらし世界」の実現に寄与することのできる人材の育成を目指す“信条教育”を柱とする学校運営に努めています。

天理大学は令和6（2024）年4月改組を行い、4学部15学科3研究科で再スタートしました。同年7月、深谷善太郎理事長の後任として、西浦忠一理事が新たに理事長に就任しました。新理事長の思いを承けるべく、教職員全員を対象として毎年開催している「信条教育講習会」は、西浦理事長を講師として2回に分けて開催しました。

教職員の指針として策定した「めざす教職員像」のアンケートについては本年も全教職員に実施し、一人ひとりが常に信条教育を意識した取り組みがなされているかの自己点検を行い、信条教育発揚の一助としました。

教育現場で勤める教職員にとって、研修が何より大切であることは言うまでもありません。各学校・園はそれぞれの実情に応じて研修会を実施し、加えて法人全体としては新任者研修会、現職研修、管理職研修会、施設訪問研修会、新たに外部講師によるミドルリーダー研修を開催し、教職員の資質向上を目指しました。

学校運営検討委員会では、「天理高等学校」「天理中学校」「天理小学校」「天理幼稚園」の教育目標達成を目指し、保護者や社会から信頼される学校づくりを進めるために「学校評価」等を活用して、法人と学校の連携を図るとともに、それぞれが抱える課題を共有して学校運営の継続的な改善・向上に努めました。

学校施設は学生・生徒・児童・園児が一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、その安全は極めて重要です。本年度は、天理小学校の耐震補強工事を実施しました。

キャンパス整備については、従来から重要性また緊急性の高いものから計画的に取り組んでいます。本年度は、施設・設備面の主なものとして、天理大学杣之内キャンパスではマルチメディア教室・PC教室の機器入替、田井庄キャンパスでは七号棟研究室改修工事、総合体育館空調設備新設工事、別所キャンパスでは西門門扉設置工事等を実施しました。また、白川グラウンドラグビー場人工芝更新工事、天理参考館では非常誘導灯更新工事を、天理高等学校では教員用Chromebook購入、第2体育館のLED照明更新工事を実施しました。さらに、天理中学校では講堂・体育館・グラウンドのLED照明更新工事、防犯カメラシステム更新を、天理幼稚園ではステンレス傾斜雲梯購入を実施しました。

以下、令和6（2024）年度の各教育施設の主な事業内容を報告します。

本学は、令和3（2021）年度から始まった18歳人口の急減期において、90年余りの伝統と実績を基盤に、選ばれる大学としてさらなる発展を目指しています。令和7（2025）年の創立百周年を直近の目標として、改革を推進するため、「天理大学【2025-2029】中期計画」を策定しました。この計画では、3つの重要目標達成指標（KGI）と、KGIを達成するための9つの重点項目および定量的または定性的な目標（重要業績評価指標：KPI）を設定し、教職学協働で改革を推進する体制整備に取り組んでいます。

創立百周年に向けた式典および記念事業の計画については、新たに「創立百周年記念事業委員会」を立ち上げ、4月23日の式典や学部、附属施設主催の記念行事等計6回の準備を進めています。また、百周年記念事業として、長年の懸案であったキャンパス施設の更新を図るため、一号棟（旧本館）周辺の整備や体育学部の十号棟等の建設計画を推進する事業を展開するために、「創立百周年記念募金」を設立しました。目標額達成に向けて、卒業生、在学生保護者、現・元教職員を中心に協力を呼びかけました。



創立百周年ロゴマーク

令和6（2024）年4月からの改組は、創立百周年に向けた本学の改革の一環として位置づけられます。現在の人文学部と文学部を統合し、新たに人文学部を設置するほか、国際学部は現在の2学科から6学科に再編しました。従来の体育学部、医療学部と合わせて、計4学部15学科からなる文理融合型の大学として、令和6（2024）年4月より新たに始動しました。引き続き、教育・管理上の諸課題に対応しながら大学運営を進めていきます。

文部科学省へは、新学部、学科の開設年度である令和6（2024）年度から完成年度の令和9（2027）年度まで、履行状況報告書を提出することになっており、令和6（2024）年度分を提出しました。

また、毎年行っている自己点検評価活動として、大学基準協会が定める「大学基準」に基づき設定された「点検・評価項目」について、「自己点検・評価のためのチェックシート」を用いて点検・評価を実施しました。

### <教育 研究>

令和5（2023）年度に科目「データサイエンス・AI入門」を新設し、その科目を中心として、本年度、文部科学省に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」への申請を行い、認定されました。この情報は本学公式サイト等で公表しています。また、同科目を教育職員免許法第66条の6に定める「数理、データ活用および人工知能に関する科目または情報機器の操作」内の科目の1つとし、カリキュラム上は必修としない体育学部学生の多くが教職課程を履修するため、同科目の受講を促しています。

FD活動においては、前年度に引き続きオープンクラスウィークに取り組み、全教員による授業公開と、学部を超えた参観が活発に行われました。加えて、各学部で企画するFD研修会（専任教員参加必須）を6月と9月に実施しました。

また、「学生による授業評価」アンケートが全学部・研究科を対象として実施し、アンケート結果をもとにベ

ストティーチャー表彰を行っています。さらに、教員が自分の授業や指導において投じた手法や工夫を可視化し、第三者の評価を得て、教育改善に役立てることを目的に導入したティーチング・ポートフォリオのさらなる活用を促しました。さらに前年度に引き続き、在学生（全学部生）を対象に学修行動調査、入学時アンケートおよび卒業生・修了生アンケートを実施し、学習成果の可視化のための取り組みを進めました。

学外研究助成等の活用としては、本年度の科学研究費助成事業の採択件数は継続分を含めて研究代表者分が45件、研究分担者分が32件で合計77件となりました。また、3年間の研究の最終年度にあたるJAXA（宇宙航空研究開発機構）、令和5（2023）年度から継続中の公益財団法人天理よろづ相談所病院およびシスメックス株式会社との三者契約による共同研究が実施されました。その他、民間企業との共同研究や、民間の各種助成金等の活用も含めた活発な研究活動が展開されたほか、「天理大学学術・研究・教育活動助成」や図書出版助成を活用した研究活動や発表が行われました。

図書館システムにおいては、本年度にバージョンアップするとともに、クラウド化し、サービスを向上させました。学術情報リポジトリについても令和6（2024）年度より附属天理参考館の「参考館報」の登録を始める等、情報発信をさらに充実しました。

学術刊行物については、『天理大学学報』第76巻第1号～第4号（通巻第269輯～271輯）を刊行しました。その他の学内刊行物としては、各研究室等で『天理大学生涯教育研究』第29号、『天理大学社会福祉学研究室紀要』第27号、『山邊道』第65号、『史文』第27号、『古事』第29号、『中国文化研究』第41号、『教職教育研究』第7号、『天理大学史研究紀要』第5号等を刊行しました。

研究倫理教育に関しては、経済産業省安全保障貿易自主管理促進アドバイザー制度を利用して講師を招き、研修会「研究インテグリティの確保と安全保障貿易管理について」を開催しました。研修会では、研究インテグリティに係る学内の諸規程やポリシー、諸手続に加え、安全保障貿易管理の制度概要についての説明が行われました。参加対象は教員、公的研究費等運営・管理責任者、事務処理担当者およびその他学校法人管内専任教職員希望者並びに大学院生で、欠席者には当日の研修会を録画したYouTube限定公開の動画視聴により、対象者全員が受講しました。

TA（ティーチング・アシスタント）を対象に前期・後期と1回ずつ研修を開催し、CALL教室で教員のアシスタントをするSA（ステューデント・アシスタント）についても、研修を実施しました。

情報ライブラリーに関しては、館内利用をサポートする「（学生）ピア・サポーターズ」の本年度秋学期の登録者数が倍増し、留学生を含む学生たちにもその活動内容が浸透してきています。ピア・サポーターズが企画する行事への参加学生も増加傾向にあり、「Talking Club」は学生たちがお互いの異文化理解を深める絶好の機会となりました。

本年度にはPC教室（第1、2、4～8教室、PCA・B教室）およびPC自習室への無線設置、学生用PCの撤去（教員機器は更新設置）を行いました。

また、研究棟演習室ではスイッチャー、電源制御装置、ミキサーアンプ等、二号棟各教室では電源制御装置やスピーカー、七号棟ではスピーカー、三・六号棟ではPC教室のプロジェクタ、スイッチャー等老朽化したすべ

ての機器の更新を行いました。

## <国際交流>

本年度は、新たな海外の大学との協定締結には至らず、年度末時点での海外交流協定大学・機関の数は25カ国・地域55大学3機関になります。

学生交流については、協定校からの短期（交換）留学生を13カ国・地域の23大学・機関から42名を受け入れました。派遣は、11カ国・地域22大学の協定校へ交換留学生43名を、4カ国・地域4大学へ認定留学生9名を送り出し、年間52名の学生が留学に出向きました。各種海外研修プログラムは、本年度の夏期休業期間中に国際学部韓国・朝鮮語学科の「海外語学実習」が韓国のソウルにて実施（学生17名が参加）、中国語学科では台湾の台北で実施（学生11名が参加）されました。春期休業期間中には、国際学部英米語学科の「海外語学実習」がアメリカのケンタッキー州（学生7名が参加）とフィリピンのマニラ（学生24名が参加）で実施されました。また、「国際スポーツ交流実習」（春期休業期間中）もドイツのマールブルクとケルンにて実施され、体育学部と人間学部  
に所属する学生14名が参加しました。「国際参加プロジェクト」については、タイのマハーサーラカム、パヤオ、バンコクにて実施され、国際学部と人間学部  
に所属する学生12名が参加しました。

学部学科の改組により本年度に新設された7つの言語教育を提供する外国語学科では、言語毎に「海外語学実習」を実施する予定でしたが、新1年生による履修登録が無かったことから、実施には至りませんでした。

海外インターンシップ制度による研修については、人間学部所属の学生1名がアメリカ・ニューヨークでの研修に参加しました。また、天理市、独立行政法人国際協力機構関西センター、本学の三者連携による本学柔道部在学生のエジプトへの短期派遣については、前年度の5名の派遣に続き、本年度は3名の派遣を実施し、エジプト柔道連盟との継続的な協力連携を維持できました。

本年度の新たな取り組みとしては、本学の短期留学生寮（親里4号館、天理グローバルハウス小田中）に本学の日本人学生をレジデント・アシスタント（RA）という立場で入居してもらい、国際交流センター室職員と連携を取りながら、入居者である短期留学生への支援、寮環境の維持・改善、本学の国際性促進に向けた体制を立ち上げました。本年度春学期から女子学生2名を、秋学期には男子学生2名を加えた4名体制が実現しました。



『みんなの文化フェスタ』での民族衣装ファッションショー

する外国語会話力向上に貢献しています。本年度の春学期は11言語28名の言語チューターを配置し、延べ467名

第34回となる夏期日本語講座については、7月8日から20日の間に開催し、8カ国・地域の13大学・機関から85名（男性18名、女性67名）の受講生が参加しました。授業は日本語の習得レベルに合わせた3つのクラス（入門、基礎、応用）に分けて実施され、日本人学生カウンセラー38名がサポートにあたり、授業以外の生活面でもサポートを行う等、学生同士の交流を深めました。

「iCAFé（アイ・カフェ）」については、留学生と日本人学生の出会いの場として、本年度も英語をはじめと

が参加しました。秋学期は10言語20名の言語チューターにより延べ322名が参加、年間789名の日本人学生や留学生が外国語での会話指導を受けました。

また、天理市との共催で立ち上げた「Tenri English Village（天理英語村）」については、年間26回開催し、小学生対象の「子供クラス」には131名が、中学生以上の「一般クラス」には212名の計343名の参加がありました。

### <就職支援>

本年度は、就職準備のためのガイダンスについて、前年度に引き続き、「学生生活を経験」→「これまでの経験のふりかえり」→「ふりかえりから将来のキャリアをデッサン」→「経験値や価値観を更新しながら社会に発信」といった経験学習のサイクル（自己理解→内省→仕事理解→実践のサイクル）を学生自身が行うことができるよう、経験学習のコンセプトを伝えるようにしました。

少人数単位のセミナー・ガイダンス等を展開するとともに大人数マス型ガイダンスも開催し、社会において主体的に活躍できる人材の育成を目的に、学生の就職支援に取り組みました。学生に対する行事等案内への連絡周知は、これまでに構築したクラス担任や学科主任、ゼミ担当者、課外活動のクラブ指導者等を経由するシステムを利用し、教職協働の活動をさらに推進しました。例えば、ゼミ等において対面型のミニマム単位で開催希望があった場合等もキャリア支援内容や進路選択・就職活動について学生に説明する機会を設けました。教職員による就職支援への積極的な関わりが増え、学生一人ひとりの状況を把握できるといった波及効果も生まれました。

4年生（本年度3月卒）には、Webでのセミナー等や個人面談、対面での面接対策やキャリアカウンセリング等も随時実施し、積極的な参加を促しました。また、クラス担任やゼミ担当教員等と密に連携を取り合い、学生の就職活動に関する情報共有を図りました。

3年生対象の就職活動準備対策については、大教室での対面式で進路・就職ガイダンスを開催し、エントリーシート作成等のセミナーも行いました。加えて、前年度同様、実力養成1日研修（就活の意味と意義、自己分析、SPI試験、コミュニケーションの取り方から業界職種研究にいたる内容を1日で研修）を実施しました。また、近年の就職活動の早期化・複雑化・長期化傾向を踏まえ、例年1月から2月に開催の日程を前倒しにして12月下旬に学内合同業界研究セミナーも開催し、卒業生が在籍する多くの優良企業の参加を得て、貴重な出会いの機会を得ることができました。筆記試験対策としては、前年度に引き続き、本学学生対象のオンライン限定公開でSPI対策講座動画を視聴しながら勉強に取り組むことができるよう環境を整えました。

医療学部は臨床検査学科進路情報説明会や面接対策講座等を開催し、より緊密な求人情報の共有等、学内で連携を図り、進路選択の充実を目指していきました。

10月から3月にかけては、面接の実践対策講座を計6回開催しました。全日程、2時限から4時限の間に講座を実施し、学生が将来の進路選択を行い、社会で働くために必要なマインドセットから始まり、実際仕事に取り組む上のマナー・エチケット面も含め、面接を体験する場を設けました。そしてその場面において一人ひとりの表現をフィードバックすることで、進路・就職活動の実践的な指導を施しました。

インターンシップについては、興味・関心のある業界・企業があれば、積極的に参加するよう案内を行いました。

た。例えば、例年同様、奈良県インターンシップ推進事業への参加を促しました。また、同時に本年度からは本学と包括的連携を締結している企業等との関係構築を深め、奈良県内でのインターンシップも展開し、地域社会の発展を担う人材育成に向けた教育の改善とその充実に力を注ぎました。

1・2年生に対しては、キャリア支援と進路・就職支援の橋渡しを図るため、前年度同様、大人数集合型のガイダンスを開催しました。また、キャリア科目の担当教員との連携を強化し、正課授業を通して学生へのキャリア支援の充実に図るため、キャリア支援課スタッフが進路・就職活動の準備について解説する授業を本年度も担当しました。授業科目「キャリアデザイン1」においては、「就職活動の進め方について知る」「履歴書の書き方」「SPIについて知る」の授業をキャリア支援課スタッフが担当し、実際の進路・就職活動で必要となることに関してのレクチャーを行い、進路・就職に対する動機づけの機会を提供しました。1年生からの選択必修授業であるキャリア科目「キャリアプランニング」では、「学生生活の過ごし方について考える」や「天理大学のキャリア教育」という内容で説明等を行い、キャリア形成を行う上で学生生活を有意義に過ごす重要性を伝えました。また、社会連携センター室の協力を得て、本年度からサテライトキャンパスとなった天理駅南団体待合所でのキャリア科目実施も試みました。

本年度は、本学のステークホルダーに対しても様々な働きかけを行いました。オープンキャンパス時には、参加生徒や保護者向けに本学での学生生活と将来の進路選択の関わり等について説明しました。学生の保証人の会である後援会の進路懇談会においては、奈良県内の中小企業経営者陣を招聘して参加者全員で「働く意味」についてグループディスカッションを実施しました。入学部とともに天理高等学校第一部進路指導教員とタイアップをとり、天理高等学校3年生向けに「天理大学のキャリア支援」について解説も行いました。

キャリア支援ルームにおいては、キャリアコンサルタントの資格を持つ担当者とも連携しながら、全学年対象の進路支援体制の充実に図りました。また、前年度同様、引き続きメンタルヘルスの観点からも、心のケアに配慮したキャリアカウンセリングや個別相談等のサポートも行いました。

外国人留学生に対しては、留学生のための就職ガイダンスを実施し、外部機関からも就職関連情報を入手し、国際交流センターとも連携しながら留学生の求める進路に対応できるよう支援をしました。

長年開講している「キャリアアップ講座」は、対面型で例年同様、正課外で実施しました。

コロナ禍以降、採用形態が大きく様変わりしており、その変化に学生が柔軟に対応し、学生自らがキャリア発達を育めるように、ガイダンス等のコンテンツや伝え方の表現方法等についても随時改善を加え、引き続きサポートを続けていきます。各種ガイダンスや対策講座、個人面談等の場を通して、学生の進路選択・就職活動や今後のライフ・キャリアの展開全般にわたって支援ができるよう改善を積み重ねていきます。

## <学生支援>

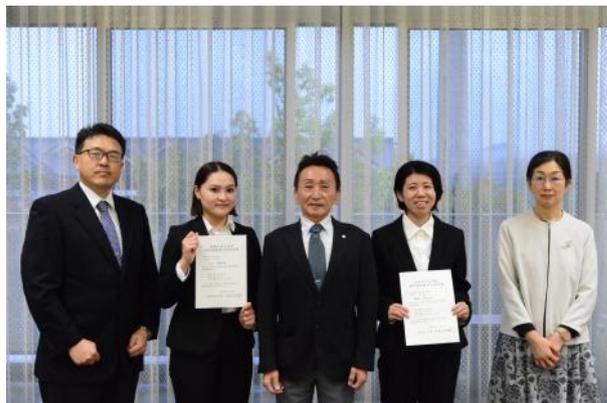
令和2（2020）年4月からスタートした「高等教育の修学支援新制度」は、800名を超える学生が支援を受け、年間を通してその事務作業に取り組みました。特に、本年度から多子世帯に係る第IV区分が設けられ、支援対象者が拡大されたことへの対応を行いました。

学内の奨学金制度では、大学院生に「天理大学大学院研究奨励奨学金」を春学期に2年生4名、秋学期に1年生2名に授与しました。学部生には、「天理大学奨学金」による奨学金を10月初旬に2年生7名、3年生6名に授与しました。

「薬物乱用防止および交通マナー講習会」を天理警察署の協力を得て6月に実施するとともに、昨今の酷暑への対応として、天理消防署から講師を招聘し、熱中症対策およびAEDの学習キットを使用した心肺蘇生法についての講習会を実施しました。

「改正障害者差別解消法」が令和6（2024）年4月1日より施行されることにより、私立大学でも合理的配慮の提供が義務化されることになり、障がいのある学生を支援するための体制の一つとして、視覚障害学生に対して、手引きやノートテイク等を学生によるピア・サポートで行いました。

また、国民年金に対する学生への支援として、学生納付特例事務法人の指定を受けるべく、規程の整備を行い、日本年金機構に申請をしました。



天理大学大学院研究奨励奨学金

## <入試>



オープンキャンパス

入試広報活動については、様々なイベントを開催することができました。オープンキャンパスについては前年同様、6回開催しました。

また、高校内ガイダンスは延べ184件、会場内ガイダンスは45件、留学生対象ガイダンスは16件、参加しました。

高校訪問にも積極的に出向き、志願者獲得に向け高校の進路指導部長と面談の上、活発な情報交換を行いました。

天理高等学校「ミニオープンキャンパス」を開催し、天理高等学校第一部の保護者懇談会での案内に加え、学校内で実施される「天理大学アワー」では、本学への入試をはじめ課外活動や奨学金等、様々な質問に答える相談業務を実施しました。

広報活動については、高校2年生の冬から参照できる「大学発見ナビ」（株式会社進研アド）や「スタディサプリ for SCHOOL」（株式会社リクルート）のWeb掲載に加え、その後の大学選びやオープンキャンパス情報等を検索できるWeb媒体として「マナビジョン」（株式会社ベネッセコーポレーション）、「スタディサプリ進路」（株式会社リクルート）、「マイナビ進学」（株式会社マイナビ）等への掲載を行いました。さらに、新聞媒体等での入試・オープンキャンパス情報の告知も含め、様々なメディアを通じた広報活動を行いました。

## <高大連携>

天理高等学校とはこれまで緊密に高大連携事業を実施してきましたが、より一層の連携を図るために引き続き定期的な会合を持ちました。また、連携協定調印高校である奈良育英高等学校および奈良県立高取国際高等学校の生徒を対象に「高大連携」行事の一環として、オンラインおよび対面の外国語レッスンを実施しました。さらに奈良育英高等学校には探求の時間としてSDGsにかかる授業を提供するとともに、高校が設定した「連携の日」に本学説明会を実施しました。また、5月には明德義塾高等学校で留学生（3年生）対象の本学説明会を開催し、12月には高取国際高等学校（1・2年生対象）の「ミニオープンキャンパス」を開催しました。

2月には、奈良県立法隆寺国際高等学校と新たに連携協定を調印し、これで連携協定調印高校は、5校となりました。

近年、ニーズが高まっている高校単位の「大学見学」は、オープンキャンパスに次いで本学を直接紹介できるイベントとして位置づけ、積極的に受け入れ、模擬授業や施設見学を通して本学の学びの内容や少人数教育の良さについても伝えることができました。

新たな試みとして、天理駅前に本年度4月から始動した「天理大学サテライトキャンパス」を会場に、通学帰りの高校生を対象とした「駅前ちょこっと外国語レッスン」をプレ企画として、令和7（2025）年1月から3月まで月1回ずつ各言語合計3回実施しました。韓国・朝鮮語（合計参加者数：12名）、中国語（同：18名）、スペイン語（同：17名）の初級レベルのレッスンで、4月以降本格的に参加者を募り、志願者確保にもつなげていきます。



法隆寺国際高等学校との調印式

## <広報>

本学ホームページのリニューアルが、前年度末に完了し、本年度の改組とともに、ページ構成やサイトデザインを全面的に一新いたしました。

大学広報誌『はばたき』（全54号）は、令和7（2025）年の創立百周年のコンセプト「CONNECT」の名称に合わせてリニューアルしました。創刊号（本年度8月発行）は、百周年事業について保証人（保護者）をはじめ多くの方々に周知を図るため、「[100周年事前特集号]“つながる”がいま始まる」をテーマに、教職員や学生の様々な「つながり」を紹介しました。第2号は令和7（2025）年3月に発行し、「大学と地域が共につくる未来」をテーマに、学長と天理市長による対談特集をはじめ、教員と学生による各学部の活動紹介、本学での学びをキャリアに生かした卒業生を紹介するとともに、本学のキャリア教育について特集を組みました。いずれもこれまでの広報誌と同様、保証人（保護者）並びに企業を含む一般向けに、本学の取り組みを紹介する意図で制作しており、庶務課、キャリア支援課と連携して関係各所に配布し、本学の学び、キャリア等の活動を周知しました。

5月には『大学案内2025』、6月には学部別の冊子『学部パンフレット2025』を発行し、入試広報活動に活用

しました。

Web広告については関西圏を中心に展開し、6月から9月にかけてオープンキャンパス、9月から2月まではインターネット出願とそれぞれ告知を行いました。

入試広報のツールとして前年度に引き続き「公式LINE」にて、本学の情報発信をしました。「オープンキャンパス」「入試情報」「ニュース」の3つのジャンルで発信するとともに、登録ユーザーの推移、開封・クリックの傾向等配信分析を行い、ユーザーに読まれる情報発信に努めました。

Webコンテンツは、トリプルメディア（オウンドメディア・ペイドメディア・アードメディア）の観点から、本年度もホームページ・SNS・Web広告に連動する形で展開しました。

## <社会連携 地域連携>

令和6（2024）年4月3日に発生した台湾東部地震に対して、中国語学科と協力し天理駅前で募金活動を行い、台北駐大阪経済文化弁事処へ義援金（451,454円）を届けました。

また、株式会社呉竹（5月2日）、天理市商工会（6月19日）のふたつの団体と包括連携協定を締結しました。

天理市から委託を受け、天理大学・モンベル共同体を結成し、天理駅前広場コフフンの施設で、本年度4月から天理大学サテライトキャンパスとして運営することとなりました。JR高架下の旧コフフンショップは、本学のアンテナショップ「i CONNECT Shop（アイ・コネクト・ショップ）」として、学生が主体となり販売や仕入れを通して地域住民や事業者と「つながる」ことを目指して運営しています。「i CONNECT Shop」は、近鉄百貨店橿原店の「第2回天理のめぐみコレ」（9月11日～17日）に出店し



てんたいフェスタ

「幸運を呼ぶ馬蹄」を18個売り上げ、マスコミにも取り上げられました。天理本通りマルシェ「本ぶらサンデー」（11月17日）では、包括連携協定を結んだ株式会社呉竹とのコラボ商品「塗り絵セット」を販売しました。旧コフフンマルシェに代えて「てんたいフェスタ」をサテライトキャンパスで10回開催し、その中で同志社大、近畿大、大阪経済大と本学の4大学のカフェクラブが参加した「コーヒーバトル」を実施

し、市民のみならず関西の大学生と交流し「つながり」を広げました。

天理教南団体待合所（ダンマチ）において、農と食、旅と観光に関する授業を4科目（春学期2科目、秋学期2科目）開講し、駅前でのイベントを企画実施して農業やカフェの経営を学び、旅行商品の開発を通じて観光コンシェルジュとしての技能の習得に取り組む授業の支援をしました。

ホースセラピー事業は、クライアントを有料で受け入れる仕組みを導入し、秋から馬術部の協力を得て、不登校や神経発達症のあるクライアント4名を受け入れ、継続的・集中的なセラピーを開始しました。授業においては、「天理大学特別講義2 [ホースセラピーⅠ]」（令和5年開講）に加えて、そのアドバンスト・コースとして「天理大学特別講義3 [ホースセラピーⅡ]」を開講し、2科目の単位を履修した者に対して、ホースセラピー事

業に参加して学ぶための「インターンシップ1 [ホースセラピー]」を秋学期から開講しました。「ホースセラピーⅠ」には学生8名と科目等履修生30名、「ホースセラピーⅡ」には科目等履修生8名、そして、「インターンシップ1」には科目等履修生3名が登録履修しました。また、インターンシップをより充実させるために、履修証明プログラム制度に則って、「『ホースセラピー・スペシャリスト』養成講座」を設置し、令和7（2025）年秋から実施する予定です。

熱中症対策として、包括連携協定を結んでいる大塚製薬株式会社とコラボし、運動クラブに所属する教職課程の学生が熱中症予防ポスターの製作に取り組み、天理市内の中学校を対象にポスターの発表と熱中症対応の出前授業（7月3日～10日）を行いました。

天理市との包括連携協定による「天理市行政施策貢献学生認定制度」では、本年度初めて、社会連携センター室から学生に対して、貢献活動の自己申告を促したことによって、36名の学生が天理市長から認定されました。

天理の姉妹都市である韓国の瑞山市との交流事業では、天理市が招待した韓国の中学生626人を迎え、韓国・朝鮮語学科の学生43名が参加して交流しました。

公開講座については、旧広報・社会連携課から引き継ぎ、5会場22講座を実施しました。

天理アグリ株式会社との連携によって、天理幼稚園の年中組の園児を招待して、畑で人参を収穫したあと、馬術部の馬場で馬への餌やりとふれ合い体験を実施しました。また、園児が収穫した人参やラグビー部が収穫したキャベツを社会連携センター室で販売しました。

JTBと天理市、本学の産官学で組織された「天理市スポーツツーリズム推進協議会」の事務局の役割を担い、ラグビー・スプリングカーニバル（6月2日）、男子バレー部ファンミーティング（8月24日、11月3日）、柔道部によるウクライナチームの受け入れ（10月25日）、柔道体験ツアー（11月9日）について、協議に参加し実施運営を協力しました。

奈良マラソン2024（12月7日、8日）では、中国語学科の学生が通訳ボランティアをするとともに、大塚製薬株式会社のスポーツドリンク（ボディーメンテ）のサンプリングを手伝い、臨床検査学科が奈良新聞社と共同で、肝炎ウイルスの早期検査に関する啓発活動を実施しました。

包括連携協定を結んでいる独立行政法人国際協力機構関西センターの依頼を受けて、天理市内の6小学校において、柔道部員が出前授業（11月20日～1月20日）を行いました。

令和6（2024）年1月1日に発生した能登半島地震の復興支援として、関西珠洲会に協力して「珠洲ドキュメンタリー映画：風が凧のころ」の天理上映（3月2日）に際して、株式会社モンベルの後援を取り付けるとともに、本学も後援し、運営実施に協力しました。

## <課外活動>

本年度も、体育系クラブが数多く、本学の名声を高める素晴らしい結果を残しました。

合気道部は、「第44回関西学生合気道競技大会乱取競技女子団体戦および個人戦、演武競技男子対徒手、短刀乱取競技女子団体戦」で優勝しました。また「第55回全日本学生合気道競技大会乱取競技女子団体戦および個人戦」、「第2回全日本合気道競技大会演武競技中上級の部」、「第44回関西学生合気道新人競技大会乱取競技女

子個人戦」の各大会で優勝しました。

ウエイトリフティング部は、「第39回関西学生選抜ウエイトリフティング選手権大会102kg級」、「第16回近畿女子ウエイトリフティング選手権大会71kg級」、「第71回関西学生ウエイトリフティング選手権大会109kg級」の各大会で優勝しました。

女子空手道部は、「第68回全日本学生空手道選手権大会個人組手Division2」、「第13回関西学生空手道オープントーナメント個人形シニア」の各部門で優勝しました。

硬式野球部は、「阪神大学野球連盟2024年度リーグ戦春季リーグ戦」、「秋季リーグ戦」ともに優勝し、8季連続の優勝となりました。また、「第73回全日本大学野球選手権大会」、「第55回記念明治神宮野球大会」の両大会において、ベスト4進出という創部以来最高の成績を収めました。

柔道部・男子は、団体では「第74回関西学生柔道優勝大会」で優勝しました。個人では、「第18回近畿ジュニア柔道体重別選手権大会60kg級、66kg級、73kg級、81kg級、90kg級、100kg級」、「第43回関西学生柔道体重別選手権大会60kg級、66kg級、73kg級、81kg級、90kg級、100kg級、100kg超級」、「全日本ジュニア柔道体重別選手権大会60kg級、81kg級」、「第43回全日本学生柔道体重別選手権大会100kg級」の各階級で優勝を果たしました。また、「世界ジュニア選手権大会」には、3人が出場し、60kg級で優勝しました。

水泳部は、「関西選手権水泳競技大会男子50mバタフライ、女子50m背泳ぎ」、「関西学生チャンピオンシップ水泳競技会女子400m自由形」で優勝しました。

創作ダンス部は、「第36回全日本高校・大学ダンスフェスティバル」で日本女子体育連盟会長賞、「アーティスティック・ムーブメント・イン・トヤマ2024」で特別賞を受賞しました。

男子ソフトテニス部は、「関西学生ソフトテニス新人大会」で優勝しました。

軟式野球部の3年生男子1名が、日本代表チームのメンバーに選ばれ海外遠征に行きました。

男子バレーボール部は、「関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦」、「第50回西日本バレーボール大学男子選手権大会」、「天皇杯全日本バレーボール選手権大会近畿ブロックラウンド」、「Phiten CUP関西バレーボール大学選手権大会」の各大会で優勝をしました。

男子ホッケー部は、「関西学生ホッケー春季リーグ」で優勝し、「全日本学生ホッケー選手権大会」で見事日本一に輝きました。また、複数の学生が日本代表に選出され、マレーシアで開催された「スルタン・アズランシャーカップ」で優勝をしました。女子ホッケー部は複数の学生が日本代表選手として活躍しました。



第 61 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会



第 36 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル

ラグビー部は、「2024ムロオ関西大学ラグビーAリーグ」で4年ぶりに優勝し、「第61回全国大学ラグビーフッ

トボール選手権大会」ではベスト8に進出しました。

陸上競技部は、「第101回関西学生陸上競技対校選手権大会T&Fの部男子砲丸投げ」、「関西学生新人陸上競技選手権大会男子走り幅跳び」、「関西学生陸上競技種目別選手権大会男子砲丸投げ、女子100mH」の各種目で優勝しました。

レスリング部男子は、「西日本学生レスリング新人選手権大会」、「西日本学生レスリング選手権大会フリースタイル97kg級」で、レスリング部女子は、「西日本学生レスリング選手権大会」、「全国社会人オープンレスリング選手権大会55kg級」でそれぞれ優勝しました。

また、スロベニアで開催された「FISUワールドユニバーシティゲームズスポーツクライミング競技大会」で、本学の学生がリード種目で優勝しました。

文化系クラブでは、雅楽部が毎年恒例となっている天理および東京での定期公演を行い、9月には能登半島地震で被災した珠洲市で慰問公演を行いました。

学生自治会（心光会）は、次年度の本学百周年に向けて、初めて杣之内第一体育館周辺を会場として「NEWFACE」をテーマに第76回天理大学祭を開催し、大勢の来場者を迎え、成功裏に終わりました。

信条教育活動は、普通授業期間中に天理教教会本部で毎朝の昇殿参拝をしました。また、「おつとめまなび」を年3回、さらに信仰フォーラムを年2回行い、全学一斉ひのきしんデーには多くの学生・教職員がひのきしんに励みました。学生の活動としては、本年も学生信仰団体よふぼく会主催の「夏期伝道」を実施、また、多くの学生が「こどもおちばがえり」や「お節会」のひのきしんに参加しました。

### <施設 設備関係>

体育学部総合体育館は授業や課外活動での使用頻度が高く、近年は気温上昇により、毎年数名の学生が熱中症で体調不良となっていました。そこで、熱中症対策として空調設備の新設工事を実施しました。工期は約1カ月で、7月に10馬力の室内機をメインアリーナに10基、サブアリーナに5基設置し、8月から課外活動時に冷房運転を開始しました。

また、体育学部では、改組による学生収容定員の増加に伴い、教員数も増加しました。令和7（2025）年度の新採用教員の状況を踏まえ、教員研究室が1部屋不足するため、七号棟2階の教員研究室を改修し、2部屋に分割して1部屋を確保しました。

別所キャンパス西門は、時間外に教職員が出入りする際、夜間は特に危険な状態のため、学外者の入構防止、教職員の安全を確保する目的で、西門横に門扉を設置しました。

情報化推進の一環として、杣之内キャンパス三号棟PC教室の機器更新を実施しました。また、学生の必携PCに対応するため、学生用印刷管理サーバーを更新しました。さらに、杣之内キャンパス二号棟、本館（研究棟）、体育学部キャンパス七号棟において、マルチメディア機器の更新を実施しました。

### <スタッフ ディベロップメント関係>

「パワハラ防止法と改正公益通報者保護法を踏まえた内部通報体制の必要性について」と題した研修を、7月10日に開催しました。当日参加できなかった教職員にはオンライン視聴を義務付け、期間内に全教職員が研修を

終了しました。

また、従来から実施している人権研修を、本年度も各学部および事務部署において、それぞれ工夫を凝らした内容で実施しました。

## 天理図書館

貴重資料・学術資料の収集・整理・保存に努め、善用に心がけました。

図書整理は、インターネット上での天理図書館所蔵資料の検索が可能となるように新収資料を随時公開しています。

また、一般図書のカード目録の遡及入力は、92%を終えました。令和6（2024）年度も前年度に引き続き、主に和漢古書、明治期刊行書、洋書の遡及に取り組み、4,070冊の入力を行いました。和漢古書の遡及入力、古典籍資料を多く所蔵する天理図書館の使命であり、学会各方面の利用に供し、新たに重要資料であることが確認される等、学術研究の進展に寄与することができました。

閲覧サービスは、開架書架の図書を絶えず新整理図書と入れ替える等、見直し作業を行いました。貴重書（近世文書を含む）の閲覧は、延べ207名1,566冊の閲覧があり、多数の研究者が利用しました。

当館の利用案内として、4月22日から5月24日の期間中、天理教校本科実践課程、同研究課程、専修科2年生を対象に、また、4月15日から1月21日の期間中、天理大学1年生および卒論利用のための3、4年生を対象としたオリエンテーションを行い、計25回335名が来館しました。

館内の見学は、駐大阪中国総領事等各国政府関係者をはじめ、国内外の研究者や学校関係者等の来客が68件885名あり、閲覧室、展示室等を案内しました。また、大学のオープンキャンパスの際は、キャンパスツアーや自由見学で来館者の案内をしました。加えて、新聞・テレビ等において、当館建物の紹介を中心とした報道がなされ、天理の名を広く知らしめることとなりました。また前年度に引き続き、個別の見学や有料の建物見学ツアーの申し込みが続いています。

また、9月11、12日には、天理中学校の3年生全員が天理図書館を訪れ、西野由紀氏（天理大学人文学部国文学国語学科教授）の“松尾芭蕉「おくのほそ道」－江戸時代の旅と俳諧－”という特別授業を行いました。授業後は、展示室にて、松尾芭蕉に関連する資料を中心に貴重書を鑑賞し、古典籍を身近に感じることができました。

所蔵資料の画像掲載利用は、193件の申請があり、教科書、学習参考書から学術書、大学紀要類、テレビ放送等で当館所蔵資料が利用されました。

所蔵資料の保存対策として、『源氏物語』河内本等の貴重資料を修復し、閲覧・複製等の利用に供せられるようになりました。

所蔵資料を広く一般に公開する上から、展覧会や講演会を開催しました。本年度は、特別展として「琉球古文書一修理事業完了記念」を4月16日から20日まで開催し、323名の来場者がありました。復元中の首里城の宮

殿内部の色彩を復元するための重要な手がかりになる古文書であることから、多くのメディアに取り上げられました。

また、天理ギャラリー第181回展「芭蕉の根源—北村季吟生誕400年によせて—」を5月12日から6月9日まで開催し、518名の来場者がありました。

さらに、巡回展「大航海時代—マルコ・ポーロが開いた世界—」を7月6日から8月25日まで、仙台市博物館にて開催し、16,839名の来場者がありました。

また、開館94周年記念展「芭蕉の根源—北村季吟生誕400年によせて—」は、天理参考館を会場として、10月23日から12月2日まで開催し、2,553名の来場者がありました。会期中の11月3日には、佐藤勝明氏（和洋女子大学教授）による記念講演「北村季吟の俳諧とその影響力」を開催し、58名の来場者がありました。

出版活動は、天理図書館報『ビブリア』第161号（5月刊）、同第162号（10月刊）の他、天理ギャラリー181回展および開館94周年記念展の展覧会図録を出版しました。

対外的な活動では、奈良県図書館協会大学・専門図書館部会の加盟館として県内の大学・専門図書館と連携、



「開館 94 周年記念展」展示室風景



展覧会記念講演会の模様

協力し、また、同協会地域資料研究会から委員の委嘱を受けて、地域資料について調査・研究、情報の共有化を図っています。

また例年、私立大学図書館協会、同西地区部会、同西地区部会京都地区協議会の各総会、研究会に出席する等、加盟各館と連携、協力しています。

施設・設備面は、東書庫のLED照明更新工事および分電盤交換工事を行いました。また、館内外の日々の清掃はもとより、曝書期間を利用して、正面ホール、廊下、階段、休憩室等の清掃・ワックスがけを行い、環境美化に取り組みました。

また、耐震修繕工事に向けて保存活用計画を策定すべく、関係各所と協議しました。それに伴う必要経費に関しては、令和6（2024）年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金の交付を受けました。

なお、令和7（2025）年3月21日の文化審議会において、『参宮人帳・御祓賦帳』（橋村肥前大夫家伝来）33点を重要文化財に指定することが答申されました。

令和6（2024）年度も、本研究所に託された教内外からの期待に応えるべく、着実に歩みを進めました。

「天理教事典研究会」（月例）では、『天理教事典 第3版』の天理教用語の読み直し・内容の検討作業を進めています。この研究活動は項目の記述、特に教語について、より充実した内容を目指すものであり、加筆や修正、新項目の追加および項目の再考が幾つかありました。本年度は、天理教音訳研究会からの指摘を受けて、読み方や内容の確認も行いました。

「公開教学講座」は、「信仰に生きる 『逸話篇』に学ぶ（10）」をテーマとして動画配信の形式で開催しました。前年度に引き続き『稿本天理教祖伝逸話篇』を手掛かりとして、天理教の信仰の世界の一端を明らかにし、信仰的理解をさらに深めることを目指しました。令和6（2024）年6月、7月、9月、10月、11月、令和7（2025）年1月のそれぞれ1日に配信しました。周知や配信の方法については今後も工夫・改善をしていきます。内容は、「172 前生のさんげ」井上昭洋（おやさと研究所所長）、「114 よう苦労して来た」澤井真（おやさと研究所研究員）、「135 皆丸い心で」岡田正彦（おやさと研究所研究員）、「36 定めた心」八木三郎（おやさと研究所研究員）、「85 子供には重荷」森洋明（おやさと研究所研究員）、「144 天に届く理」中西光一（おやさと研究所研究員）。なお、その要旨は『グローバル天理』に掲載し、またその本編については「伝道参考シリーズ」に掲載予定です。

特別講座「教学と現代」（第20回）は、令和7（2025）年3月27日に天理大学第1会議室を会場として、天理総合人間学研究室と天理ジェンダー・女性学研究室および伝道史料室（第9回伝道フォーラム）の共催で開催しました。「『天理教台湾伝道史』刊行記念 台湾伝道を振り返る」をテーマとし、編集委員が担当箇所に関わるテーマで発題し、参加者からの意見や体験等を共有しながら、活発な質疑応答がありました。

「研究報告会」は主に研究員および学内の研究者が中心となり、現在取り組んでいる研究成果の一端の報告等10人の発題者で、以下のとおり開催しました。

第366回（4月15日）「「生かされて生きている」人間における他者への貢献性—他者を「生かし」他者に「生かされる」べき道徳法則—」関本克良（天理大学人文学部教授）、第367回（5月31日）「法隆寺梵本心経並尊勝陀羅尼とネパール古代碑文の比較研究—文字形態の比較の見地から—」成田道広（天理大学非常勤講師）、第368回（6月17日）「作家・室井光広（1955～2019）の芥川賞受賞作品と寄贈自筆原稿について」金子昭（おやさと研究所研究員）、第369回（7月29日）「揺れ動く聖地像—複数の目線が絡むおぢば一枚刷り—」井上国太郎（東京大学大学院）、第370回（9月25日）「明治改暦と近代仏教—太陽系と須弥界—」岡田正彦（おやさと研究所研究員）、第371回（10月21日）「ブラジルにおけるプロテスタント系学校の設立と展開—コレージオ・ピラシカバーノを事例に—」中西光一（おやさと研究所研究員）、第372回（11月7日）「名前（ファーストネーム）の音韻的分析—イングランドとウェールズの名前を中心に—」山本晃司（天理大学国際学部准教授）、第373回（12月20日）「明治初期における京都の様相—伝道に関する高野友治先生の見解の検討—」遠藤正彦（天理教校）、第374回（1月20日）「博物館の脱植民地化をめぐる：収集という過去にいかに向き合うか」土井冬樹（天理大学国際学部講師）、第375回（2月14日）「遺骨の個人化—ベトナム南部メコンデルタの事例か

ら考える一」芹澤知広（天理大学国際学部教授）。これらの報告会の要旨は、『グローバル天理』に掲載しました。

「伝道研究会」は、伊藤守康禰宜（明治神宮国際神道文化研究所）を講師に、第70回（11月8日）「明治神宮の国際交流とその課題」と題して、話を伺いました。なお、この研究会は、「第33回宗教研究会」との共催で行い、要旨は、『グローバル天理』に掲載しました。

出版活動としては、月刊『グローバル天理』令和6（2024）年4月号～令和7（2025）年3月号、『おやさと研究所年報』第31号、『Tenri Journal of Religion』第53号、「伝道参考シリーズ42」として『伝道と翻訳ー受容と変容の”はざま”から見た史的展開ー』（成田道弘著）、「伝道参考シリーズ43」として『日本語教育と海外伝道』（大内泰夫著）を刊行しました。このほか、三濱善朗氏（天理教教会本部本部員）を編集長として編集作業を進めてきた『天理教台湾伝道史』も刊行しました。

また、天理大学年史編纂室の協力を得て、天理大学100年の歴史の特筆すべき各場面をテーマごとに写真とした「おやさと研究所廊下ギャラリー」および学生ホールでの展示を行いました。

## 天理参考館

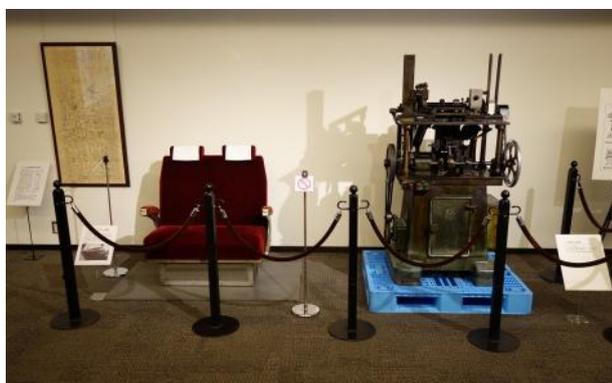
令和6（2024）年度も前年度に引き続き、企画展を含めた各種イベントを開催しました。

博学連携の充実を図り、本法人の各施設や天理市内の小・中学校への当館利用促進の働きかけを行いました。また、天理市教育委員会主催の初任者研修（8月）を当館にて開催しました。

常設展示（「震災復興展示ー 民俗と歴史 ー」（平成27年7月～）を含む）のほか、ペルー独立確立200周年 第95回企画展「器にみるアンデス世界ーペルー南部地域編ー」（4月～6月）、第96回企画展「布留遺跡の歴史ー物部氏より前から後までー」（7月～9月）、



第 96 回企画展「布留遺跡の歴史」



天理ギャラリー第 182 回展  
「歴鉄 日本最大の私鉄「近鉄」110 年の軌跡」

（7月～9月）、天理図書館開館94周年記念展「芭蕉の根源ー北村季吟生誕四百年によせてー」主催：天理図書館（10月～12月）、第97回企画展「墳墓のインテリアデザインー墳墓観の変遷 漢から唐へー」（1月～3月）を開催しました。

天理ギャラリー展は、第182回展「歴鉄 日本最大の私鉄『近鉄』110年の軌跡」（9月～12月）を開催しました。

企画展・天理ギャラリー展関連イベントとして開催し

た記念講演会、トーク・サンコーカン、ワークショップ、マンデートーク・ギャラリートーク（展示解説）および体験イベント等は好評でした。

また、令和2（2020）年度に開催した天理大学附属天理参考館・天理図書館創立90周年特別展「大航海時代へーマルコ・ポーロが開いた世界ー」は仙台市博物館（宮城）にて巡回展を開催しました。

この他トーク・サンコーカン（学芸員による講演会）を8回開催しました。ワークショップ「バリガムラン体験講座」、「クラシックギター講座」を、前期・後期に分けて開催しました。さらに、天理図書館開館94周年記念展では記念講演会「北村季吟の俳諧とその影響力」を開催しました。

令和2（2020）年度より始めたマンデートークは、本年度より8月を除く月2回実施に変更しました。また、解説内容も展示室の一つのコーナーをわかりやすく解説する【トーク1】と、同コーナーに展示中の資料の深掘り解説する【トーク2】を同日開催にリニューアルし、計22回実施しました。

また、ミュージアムコンサート「参考館メロディユー」（天理教音楽研究会共催）は9回開催しました。

天理教教会本部主催の「こどもおぢばがえり」行事として、7月27日から8月4日まで常設展示を見学しながら行う『謎解き博物館「サン・ロレンソ1号君からのSOS」』を実施しました。

学校法人天理大学主催「施設訪問研修会」（11月）が当館にて実施され、担当学芸員が常設展示コーナーの解説を行いました。

平成21（2009）年度から寄贈資料の整理、登録業務を進め、通常業務としては生活文化・考古美術資料の収藏品および研究用図書の実態を回り、資料の調査研究、整理、修復、保存処理を行いました。さらに、収蔵資料データベース用サーバーの運用に伴い、移行した資料データベースの確認、照合作業を行いました。

図書関係では、未登録本の整理、蔵書チェックを通常業務と平行して行い、さらに、令和5（2023）年度に移行した蔵書目録データベースの確認作業を行いました。

出版活動としては、『天理参考館報』、『企画展図録』、『天理ギャラリー展図録』、『天理参考館ニュースレター』を刊行しました。

広報活動としては、当館公式ホームページ、Xに加えInstagramによる情報発信の機会を増やし、即応性のある情報を公開・更新しました。また、ホームページの外部サーバーへの移設に伴うコンテンツの見直しを行いました。

さらに、情報誌、マスコミへの情報提供、各種ポスター、チラシ等を発行する等、館活動の情報発信を継続し、充実を図りました。

その他、資料熟覧、資料写真掲載、企画展・天理図書館開館記念展開催に伴う取材の対応等を行いました。

令和6（2024）年度は、新入生402名を迎えて全校生徒1,187名でスタートしました。

4月の教祖誕生祭、10月の秋季大祭、1月の春季大祭には、全校生徒・教職員が参拝し、4月の婦人会総会には女子生徒が、10月の青年会総会には男子生徒が参加しました。また、7月27日から8月4日に開催された「こどもおぢばがえり」には752名の生徒が参加し、ひのきしんに汗を流しました。1月5日から7日に開催された天理教教会本部の「お節会」では、全校生徒がひのきしんを行いました。



こどもおぢばがえりひのきしん

全校生徒を対象とした教話では、6月に香山光氏（天理教海外部ラテンアメリカ課員、132母屋ブラジル・カナダ

母屋主任）を講師に迎え、「ブラジルの天理教 ～おぢばがえりへの思い～」との演題で、11月に福田常男氏（天理教よろづ相談所病院・事情部講師）を講師に迎え、「たすけ愛 感 あふれる世界へ ころろ尽くしたい」との演題で、それぞれお話を聴きました。

この他、学校行事では、9月に天高祭（学園祭）を、11月に校外学習と芸術鑑賞を実施しました。また、12月には希望者を対象として海外研修（タイ王国チェンマイ）を実施しました。1月には天理スポーツ・文化コース〔3類〕1年生を対象に、3月には進学コース〔1類〕と特別進学コース〔2類〕の2年生を対象にスキー実習を実施しました。

教職員研修では、信条教育に関して11月27日に永尾教昭氏（養徳社社長・天理教教会本部本部員）を講師に迎え「『陽気ぐらし』を実践できる人材の育成」をテーマに講演を聴きました。進路指導に関しては5月8日に荻堂翔龍氏（株式会社ベネッセコーポレーション）を講師に迎え、「新課程入試で押さえておきたいポイント」の講演を、人権教育に関しては、6月5日に永野潔氏（奈良県立高等養護学校教諭、公認心理師、大和中央高等学校通級指導教員）を講師に迎え、「愛着障害」についての講演を聴きました。生徒指導に関しては、10月2日に天理教教会本部保安室消防係から講師を迎え、「火災時の対応と確認と模擬通報訓練及び水消火器による実施訓練」とのテーマで講演、その後、防火訓練を行いました。また、教科指導の充実を図るため、6月もしくは11月に7教科で研究授業を実施しました。

学校評価については、10月に生徒を対象に、11月には保護者を対象に学校評価アンケートを実施し、1月に全教職員に対して学校評価アンケートを実施しました。これらの学校評価アンケートの結果を基に、学校の在り方や生徒の実態を分析するとともに、学校教育の理念に相応しい取り組みができるように、各分掌で成果と課題を整理し、次年度に向けた方策を示しました。

進学・学習指導については、1年生の5月の進路講演を類ごとに実施しました。進路講演会では定評のある講

師を招き、生徒に良い刺激を与えることができました。また、本年度から新課程入試ということもあり、情報共有を兼ねて進路指導の職員研修に講師を招き5月に実施、12月にも希望する教員を対象に進路指導の研修を行いました。夏期・冬期講習、合宿勉強会（4泊5日）については、計画通り実施することができました。

進学実績としては、特別進学コース〔2類〕の2人に1人は国公立大学に合格、内訳は神戸大学、広島大学（2名）、大阪公立大学（4名）、信州大学、静岡大学、高知大学、和歌山大学（2名）、奈良教育大学（2名）、大阪教育大等、計26名が合格しました。さらに、天理大学、関西大学、同志社大学、立命館大学、近畿大学、龍谷大学、甲南大学等、多くの私立大学に延べ90名が合格しました。進学コース〔1類〕からは千葉大学、山梨大学（2名）、大阪公立大学、大阪教育大学、奈良県立医科大学等、国公立大学計11名が合格しました。進学コース〔1類〕の国公立大学合格者は5年連続で10名以上となりました。さらに天理大学、明治大学、青山学院大学、関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学、近畿大学、京都産業大学、龍谷大学等、多くの私立大学に延べ270名が合格しました。天理スポーツ・文化コース〔3類〕からは、天理大学、中央大学、同志社大学、立命館大学、関西大学、龍谷大学、甲南大学等の私立大学に延べ56名が合格しました。全コース〔1類・2類・3類〕合わせて、国公立大学37名、天理大学160名、その他の私立大学255名、短期大学11名、天理教校専修科5名、専門学校42名、延べ511名が合格しました。尚、天理大学への進学者は5年連続で増加しています。

クラブ活動における大会・コンクール等の主な結果は次のとおりでした。

柔道部の3年生男子は「令和6年度全国高等学校総合体育大会（8月10日～12日）」において男子100kg超級で優勝し、日本代表として出場した「クリスマス杯エクサンプロヴァンス・ジュニア国際大会（12月15日・フランスで開催）」においても男子100kg超級で優勝を果たしました。

水泳部の3年生女子は日本代表として、「2025年全豪選手権大会OWS〔オープンウォータースイミング〕（1月23日～26日）」に出場し、OWS混合リレーで優勝を果たしました。

硬式野球部は、「第97回選抜高等学校野球大会（3月18日～30日）」に3年ぶり27回目の出場を果たしましたが、1回戦で山梨学院高等学校と対戦し、1対5で敗退しました。

吹奏楽部は、「第26回全日本高等学校吹奏楽大会in横浜（11月9日）」において、連盟会長賞（金賞）を受賞しました。

弦楽部は、「第13回日本学校合奏コンクール2024全国大会 ソロ&アンサンブルコンテスト・アンサンブル部門（高等学校の部）（11月10日）」において、金賞を受賞しました。

バトントワリング部は、「第52回バトントワリング全国大会（12月7日）」において、金賞を受賞しました。



令和6年度全国高等学校総合体育大会  
柔道部 100Kg 超級優勝

令和6（2024）年度は、新入生100名を迎えて、全校生徒362名で学校生活がスタートしました。4月5日入学式、6日始業式を行い、落ち着いた気持ちで年度のスタートを切ることができました。16日、農事部の生徒・職員が天理教教会本部の「はえでのつとめ」に揃って参拝をし、農作物の豊作をお願いしました。18日の天理教教祖誕生祭には全校生徒揃って参拝をし、教祖に御祝いを申し上げました。翌19日には1年生女子が婦人会総会に参加し、26日の月次祭には4年生全員が昇殿参拝をしました。また4月は学級担任による生徒の個人面談を実施し、生徒の情報把握に努めました。

5月に入り各寮との学寮懇談会、中間考査を実施、31日には校外学習を行い、1年生は奈良公園・東大寺方面へ、2年生は飛鳥方面へ電車を利用して行き、3年生は天理参考館を見学しました。

6月23日に農事部で「田植え」を行いました。植えられた苗はしっかりと育ち10月には天理教真柱を迎え「稲刈り」も行いました。7月に入り、学期末考査、終業式を終えました。夏休みは、前年に引き続き「こどもおちばがえり」に参加し、生徒・教職員ともにカレー食堂・天理駅待合所でのひのきしんをつとめました。

9月、多少の新型コロナ感染者が出て、落ち着かない状況ではありましたが、10月1日から中間考査、そして最大行事の一つである体育祭を19日に、また11月17日には文化祭を実施しました。その後、インフルエンザが急激に感染拡大し、11月21日から23日の3日間、一年生全クラスを閉鎖しました。23日のオープンスクールでは、学校説明会および個別相談会の実施とし、中学生とその保護者を含め、157名が来場しました。26日には総合体育館で生徒・教職員で「おてふりまなび」を実施しました。

12月は、4日から学期末考査、10日に人権教育（参画ネットなら）、11日に芸術鑑賞（クラリネット&サックス奏者・辻本美博with Neighbors Complain）を実施し、20日は終業式を行いました。

年が明けて1月、天理教教会本部の「お節会」に参加し、生徒・教職員ともに、帰参された信者の誘導や接待、生餅係のひのきしんをしました。



スキー実習

2月1日から4日まで、見渡す限り一面銀世界の志賀高原・横手山で行われた3年生のスキー実習は、大変貴重な経験となりました。23日には4年生79名が卒業式を迎え、学び舎から巣立っていきました。28日および3月1日には、令和7（2025）年度入学試験を無事に実施することができました。3月4日から8日にかけて学年末考査を実施し、21日終業式を終え、年度を締めくくることができました。

信条教育として、5月26日に山崎石根氏（岡山大教会・美阪分教会長）を講師に「陽気ぐらしのメガネをかけて」、9月26日に深谷義康氏（山國大教会・馬路分教会長）を講師に「『誰かの役に立ちたい』と願って奔走する毎日」、2月14日に宮内元浩氏（浅草大教会・教会長後継者）を講師に「自分らしさ」と題して講話を聴きました。また、4年

生は、3年次の3月におさづけの理を拝戴し、79名全員がようぼくとなりました。

防犯教育の一環として4月8日に「スマホ・ネット安全教室（NTT）」を、7月8日には薬物乱用、サイバー犯罪等の安全防犯教室を開催しました。

毎年行っている「いじめアンケート」は、例年通り6月と11月の2回実施し、暴力・いじめ等の根絶と未然防止・早期発見に努めました。

「校内生活体験発表大会」を6月20日に開催し、講堂に全校生徒が集い、盛大に大会を開催することができました。その結果、4年女子2名が10月の県大会へ出場しました。県大会では4年女子1名が優秀賞を、4年女子1名が奨励賞を受賞しました。

7月下旬から8月中旬にかけて、「令和6年度全国高校定時制通信制体育大会」が東京を中心として開催され、本年は8競技124名の選手が出場しました。バスケットボール部女子が4年連続21回目の優勝、バレーボール部男子が2年ぶり8回目、女子が3年連続16回目の優勝、軟式野球部が2年ぶり19回目、柔道女子個人2階級で、陸上女子100mHで栄冠を勝ち取りました。



軟式野球部王者奪還

また、文化系部活動では、雅楽部が「第39回奈良県高等学校総合文化祭（日本音楽部門）」で優秀賞（来年度の近畿総合文化祭出演資格獲得）を、吹奏楽部は「第66回奈良県吹奏楽コンクール（小編成の部）」で金賞を受賞しました。また、1月16日には奈良県高校定通制教育振興会から60名の生徒が特別表彰を受けました。

つとめ先、詰所、保護者との連携について、6月から10月にかけて担任が各つとめ先を訪問し、生徒の情報交換、相互理解となる機会を持ちました。加えて9月21日のつとめ先懇談会では34部署38名の方が来校し、全体会ならびに吉川孝之氏の講演を拝聴し、研修の機会を持つことができました。5月および10月には、全学年、二日間の日程で保護者懇談会を開催しました。また、6月5日には詰所主任懇談会を実施し、全体会および各クラス担任との面談を実施しました。

令和4（2022）年度入学生から年次進行型で新学習指導要領を実施しています。教員は教育課程研究集会や各教科の学習指導研究会等にそれぞれが参加し、研鑽を積み重ねました。GIGAスクール構想における校内整備においては、各教室に配置された電子黒板はもとより端末機の利用等、ICT活用も含めて生徒の学力向上に向けてより一層授業の工夫を図っていきます。

令和6（2024）年度は、教祖140年祭へ向かう二年目として、生徒会を中心に具体的な取り組みに向けての日々の心づくりのための活動を実施しました。前年度、生徒総会で決定した「ありがとう丸い心でたすけあい」というスローガンのもとに、各クラスで心定めを決定し、それに基づく具体的な行動を考えました。生徒会アワーでは学校生活や家庭生活で感じたよこびを記した「ありがとうカード」を発表し、生徒会を中心として年祭へ向けての日々の心づくりを行い、生徒の意識の向上を図り、「毎朝の学校参拝」や「ひのきしん活動」にも意欲的に取り組みました。教職員は「おさづけの取次ぎ」や「お願いづとめ」の意識が高まり、積極的な実践が学校生活の多くの場面で見ることができました。教職員と生徒が心をつなげて多くの人に喜んでもらえるような通り方をし、教職員自らが「ようぼく」であるという自覚をしっかりと持ち、日々学校生活を過ごしていくことに努めました。

学校行事は、新入生の当初教育、2年生の野外活動錬成会、3年生の修学旅行等を実施しました。運動会は3学年で団を構成し、入場行進、競技の応援や応援コンクールで生徒の自主性と創造力を発揮した運動会となりました。音楽会も多くの保護者が来場し、天理市民会館で盛大に開催することができました。天理教教会本部神殿の廻廊拭きを行う親子ひのきしん、授業参観や個人懇談等、保護者が来校する行事も予定通りに実施することができました。

学習面においては、全学年が朝の会の時間を使って、読書に取り組むことで、1時間目から落ち着いて授業に臨むことができました。生徒一人ひとりの学習への意識を高め、学力を向上させていくことを目標に、基礎基本に重点をおいた指導の徹底を継続的に取り組みました。さらに本年度の新しい試みとして、国語科は西野由紀氏（天理大学人文学部国文学国語学科教授）による特別授業を天理図書館で行い、家庭科は天理幼稚園で保育実習



国語科 特別授業

の特別授業を実施しました。前年度から始めた社会科の消費者教育を本年度は株式会社クレディセゾンに依頼して、社会問題をより身近に感じることができました。土器等の本物に触れる郷土教育は生徒自身がより興味を持つよう、天理参考館特別展に合わせて実施する等、多くの施設や企業と協力をしました。英語科は継続して山本享史氏（天理大学国際学部英米語学科准教授）による講演、留学生との交流、スピーチコンテストを実施しています。次年度からもこのような特別授業を継続し、より魅力ある学習計画をしていきます。

進路指導についてはキャリア教育の一環として、5月に初めて母校訪問を実施しました。1年生から3年生までの多くの生徒が母校を訪れ、現状報告を兼ねて恩師との再会を果たし、自分自身を振り返る機会となりました。また、1年生では厚生労働省の職業情報提供サイトを活用して「職業調べ」を行い、2年生では4年目となる「ラ

イフプランニング授業」を継続して実施し、3年生では「人生の先輩からの講演」として講師を招き、将来の夢や生き方等について学ぶ機会を設けました。キャリア教育は生徒の学習意欲や進路意識の向上、職業意識について考える機会を増やし、3年生で行う進路指導につなげていくものであり、本校においても進路指導の重要な柱の一つとして今後も継続してきます。高校入試では多くの生徒が希望する進路を実現できていますが、天理高等学校との連携を一層推し進め、個々の徳分を生かせる進路指導を充実させていきます。

学校生活の上では前年度同様に、「いじめのない学校生活を目指す」ということを重点目標に加え、取り組みました。ホームページで本校のいじめ防止に対する基本姿勢や対策について公表しており、例年のようにいじめに関するアンケートを実施し、見えてきた問題点については、各クラスや学年、生徒指導部会で細かなところも見逃さない対応ができるように心がけるとともに、問題が起こった際は、学校全体が組織として動くよう心がけ、取り組みました。今後も、教員がいじめに対して「絶対に許さない」という意識をしっかりとって指導にあたります。本年度2学期はいじめについての職員研修を実施し、いじめの防止や起こった際の対応について教職員で再確認しました。

「礼儀正しい規律のある学校」として重視している「挨拶」は、これまでの取り組みの成果もあり、しっかりとできています。「挨拶ができる天中生」が定着してきており、特に修学旅行等の校外へ出た時や来校者への挨拶は良いのをいがけとなり、次年度以降も継続できるようにします。

不登校傾向の生徒やオアシスルームを利用する生徒等、生徒の心の問題について本年度も教育相談委員を中心に、各担任や学年担当、養護教諭やカウンセラー、天理大学生のオアシスフレンドと連携を密にしながら状況把握に努め、カウンセリングにつなげるサポートを行いました。担任や副担任の家庭訪問も必要に応じてくり返し実施しました。スクールカウンセラーによる「こころの授業」は3年目となり、コミュニケーションの大切さを講演やグループワークを通じて伝えています。多くの悩みを持つ思春期の生徒にとって、個々の抱える問題の解決へのアプローチとして重要なものであり、今後も継続していきます。また、スクールカウンセラーからは「相談室だより」を年5回、保護者と生徒向けに発行しました。

特別支援教育について、本年度はケース会議を開くことはありませんでしたが、対象生徒について関係教職員が必要な場面で相談等を継続し、全教職員で共通理解が必要な場合は職員会議等で報告・連絡を行っています。

地域との連携は前年度に引き続き、生徒会役員を中心として杉之内町とのかかわりを積極的に進め、区長・役員



防災教室

の方との話し合いや地域のイベントへの参加等を実施しました。吹奏楽部・弦楽部・箏曲部が中心となって丹波市校区のふれあいコンサート、石上神宮での演奏や歴史文化村ホールでの地域主催の演奏会にも参加しました。さらに次年度以降も生徒会役員や部活動を中心として地域との連携を進めていきます。

生徒の生活の安全のために、警察の協力を得て「薬物乱用防止教室」と「交通安全教室」を前年度同様に実施しました。また、本年度は「ネット非行被害防止教室」も実施し、近年問題

となっているインターネットの使用や危険性について、日置慎治氏（帝塚山大学教授）より話を聴きました。また、阪神・淡路大震災から30年目となった1月17日、震災当時に本校からおにぎり等の救援物資を輸送した当時の海上自衛隊ヘリコプター操縦士の横野正和氏を招き、「防災教室」を実施しました。当時の本校生徒の行動がいかに素晴らしかったかを現生徒に伝え、天理中学生としての誇りと自覚を持ち、人に喜んでもらえ、人助けができる人材に成長して欲しいです。

部活動では、野球部、柔道部、弦楽部、箏曲部が全国大会への出場を果たしました。その中で弦楽部は「令和6年度こども音楽コンクール」で文部科学大臣賞を受賞し、2年ぶり11回目の日本一となりました。箏曲部は「第42回全国小・中学生箏曲コンクール」において銀賞（2位）を受賞しました。また、吹奏楽部と弦楽部が台北市立中正国民中と音楽交流を実施しました。

## 天理小学校

令和6（2024）年度は57名の1年生を迎え、全校児童数417名でのスタートとなりました。新入生は初めての学校生活に期待と緊張を抱きながらも、徐々に学校に慣れ、元気に学習や遊びに励んでいました。

おやさとやかた南左第二棟の本校舎は、耐震補強工事のため本年度中は使用できず、乾隅棟北棟を仮校舎として1年間使用しました。仮校舎は、元天理教校学園高校の校舎で、高校生が綺麗に使用していました。全児童・全教職員にとって初めて使用する校舎でしたが、始業式で校長が「綺麗な校舎を汚すことなく、安全に注意して学校生活を送りましょう」と話され、児童もこの言葉を胸に、日々の学校生活を大切にしていました。



耐震工事

仮校舎での生活は、いくつかの変更点がありましたが、大きな混乱もなく適応することができました。特に教室は広く、本校舎と変わらない環境で学習を進めることができたので、学習面での影響はほとんどありませんでした。体育館が使用できず、体育の授業は講堂を利用しました。講堂は十分な広さがあり、児童はのびのびと体を動かすことができました。安全管理を徹底しながら、体育の授業を滞りなく行えたことは大きな成果です。また、講堂は音響設備やエアコンが設置されており、音楽に合わせたリズム運動が簡単にでき、夏場も暑さを気にすることがありませんでした。

10月の運動会は、杣之内第一体育館を使用して開催し、本校にとって初めての室内運動会となりました。室内開催のため、天候に左右されず、熱中症の心配もありませんでした。運動会の種目については工夫を重ね、限られたスペースの中で最大限に楽しめるプログラムを考え、児童たちは新しい形式の運動会に積極的に取り組み、

大きな成長を見せてくれました。また、保護者は2階の観客席から全体を見渡すことができ、例年とは異なる形で児童の活躍を見守ることができました。

本年度は、仮校舎での生活という新しい環境の中での学校運営となりましたが、児童・教職員ともに工夫しながら順応し、学びの場をしっかりと確保することができました。また、児童は「きれいに使うこと」や「安全に過ごすこと」の意識を高めることができ、貴重な経験を積むことができました。さらに、仮校舎での生活を通じて、児童は環境の変化に適応する力を養うことができました。新たな学習方法や生活リズムに慣れ、仲間と協力しながら目標に向かう姿勢を育んだことは、今後の学校生活にも大いに生かされることでしょう。

次年度は、本校舎の耐震補強工事が完了し、再び本来の環境での学校生活が戻ることとなります。そして、本校が創立百周年を迎える節目の年となります。長い歴史を受け継ぎ、新たな時代へと歩みを進める大切な1年となることから、記念行事や特別な学習活動を計画し、児童・教職員・保護者・同窓生とともに祝う機会を設ける予定です。本年度の経験を生かし、より良い学習環境の提供に努めるとともに、百周年を迎えるにふさわしい学校づくりに取り組んでまいります。

## 天理幼稚園

教祖140年祭三年千日の2年目を迎え、子どもたちに信仰の喜びを伝えていこうと、新たに年長児1名、年中児4名、年少児24名の園児が加わり、全園児90名で新年度をスタートしました。

園児の怪我や発熱時に教職員がおさづけの取り次ぎを行い、園児も添い願いをすることで人の助けを願うことの大切さが伝わるよう努めました。また、年長児は友達が長期欠席をした際、園児たちで話し合い、神様にお願いつとめを行いました。

教職員は天理教布教部の「みおしえ学習会（十全の守護）」のプログラムに参加し、園児に教理を伝えられるよう学びを深めました。本年度は『八つのほこり』をテーマに、日々の心の使い方を振り返ることができました。今後も教職員が感謝の気持ちを持ち、信仰の喜びを伝えられるよう自らの信仰実践に努めます。



天理中学生と交流

からだづくりの重要性を確認し合い、運動遊びカードを活用し、挑戦する意欲を高めるとともに、体を動かす楽しさが感じられるよう努めました。さらに、本年度は、天理大学レスリング部や天理高等学校ラグビー部の協力を得て、レスリングやラグビーを通して、全身を使った遊びをしたり、ルールを守る大切さを知ったりすることができました。

小学校との円滑な接続を進められるよう、幼稚園から小学校への架け橋期について協議し、連携に努めました。具体的には、アプローチカリキュラムを作成し、幼稚園での学びを伝え

たり、1年生の児童に小学校生活についての質問をしたり、木の  
実をプレゼントしたりしました。また天理小学校北庭の羊を見  
たり、校長先生のお話を聞いたり、5年生の案内で小学校探検を  
しました。今後も天理小学校の先生方と相互理解を深めるよう  
努めます。



馬の餌やり体験

本年度は、他にもさまざまな交流ができました。川掃除に来て  
くれた天理教語学院の学生たち、運動遊びを教えてくれた天  
理教少年会のお兄さんたち、園舎を修理してくれた天理教宮繕  
課の方々、お芋掘りやイチゴつみ、田んぼで遊ぶ体験をさせて

いただいた天理教管財課の方々、「命のおはなし」をして下さった助産師の皆さん、家庭科実習に来てくれた中  
学や高校の学生たち、人参収穫体験や馬に餌をやる体験をさせていただいた天理大学の教職員の方々、学生た  
ち、他にも大勢の方にお世話になりました。楽しい体験には必ず準備があるということに園児は気づき、「あり  
がとうございます」と大きな声でお礼を言ったり、お手紙を書いたりして感謝の気持ちを伝えました。

特別な支援を要する園児に対しては、園児の姿を日常的に報告し、学年会議の中で課題と手立てについて話し  
合い、共通理解を持ち、対応できるように努めました。教育心理相談室心理士による巡回相談での助言を参考す  
るとともに、児童発達支援施設に同行して支援に生かしました。また、学校医と連携をとり、療育を必要とする  
園児の診察につなげることができました。必要に応じて保護者と面談を行い、短期目標を共通認識し、同じ方向  
を向いて園児を支えていくよう努めました。今後も、保護者、専門機関、小学校等との連携に努め、配慮を要す  
る園児のより良い支援に努めます。

保護者との連携については、保護者に日頃から園の姿を伝えるとともに、必要に応じて懇談の日を設け、保護  
者の思いを受け止め、子育てについて、ともに考え合う機会を持ちました。また、保護者の要望に少しでも応え  
られるように、年少児の弁当持ちを5月中旬から、預かり保育の利用を6月から開始としました。さらに、前年  
度同様、幼児教育・保育無償化制度新2号認定者を対象に、夏休み中の預かり保育を実施しました。今後も、保  
護者の思いを大切に、一緒に子育てをしていけるよう努めていきます。

安全教育としては、県の学校安全講習で学んだHANAモデルを参考に、プール、アナフィラキシーショック、  
落下事故、けいれん対応の対処方法をカードや表示をすることにより教職員間で周知しました。また、エピペン  
使用に際しての講習会、救命救急講習会を受け、教職員全員が役割分担し、緊急時に備えられるよう努まし  
た。

環境面については、日常的に安全点検をするとともに、学期ごとに安全チェックリストに沿って点検を行いま  
した。本年度は、総合遊具ステップの修理、雲梯の更新、火災報知器から受信機までの配線工事、遊戯室舞台に  
上がる段の側面修理、雨どいの大掃除、修繕を行いました。

また、本年度よりマチコミアプリを導入し、保護者へ配布する手紙のペーパーレスに努めました。